



## 明治30年代の浜町

写真に見る  
115年前の長崎  
日露戦争時代 姫野 順一

□15□

# 自然循環の中の生活風景

写真は明治30年代の浜町。長崎の町家と通りを歩く人々の風情がうかがえる。鉄橋を渡つた西浜町入口（現浜町アーケード入り口）から浜町の商店街を撮影している。背後は風頭（左）と愛宕山（右）。左端のBARBERは商

浜町のシンボルであった。右の「てぐす商」と読めるランプは高田天蚕糸屋。テグスは釣り糸と思われているが、もとは蚕から採られた天然の糸である。右はさくらん横田ガラス店、広瀬の勧工場（名店ビル）と続く。

店街の角にあつた増山理髪店。その横は「正札より一

町家は瓦ぶきの2階建て割引の今井下駄屋。その横

は柳行李など生活雑貨を並べた日の出本店。さらにきの

奥にや吳服店、福岡銀行と続

く。奥には佐々木時計店（現通りには四角の郵便ボストン）とれどれ旬家浜町店）の時計塔が見えている。これは

通りには四角の郵便ボス

トやちり箱が置かれ、電柱に羽織を引つかけている。イ

ギリスで狩猟に用いられた

男性はシャツの下に股引

は電話線である。和傘の付いた木製の柱はくんちの踊町が「献燈」と書かれた御神燈を掲げるちょうどん立てである。撮影した白は雨模様だったようで、手に和傘を持ち、舗装されていない道

はハンチング（鳥打ち帽）は明治20年代から商人がかぶつていた。刑事や探偵のイメージもある。くんちのドレスコードとなる山高帽ボウラードやつばの長いフェードなどイギリス風のおしゃれな帽子も見受けられる。

女性もほとんど和服の重ね着で髪型も簡素である。

重そうな陶器をてんびん棒で担ぐ物売りは時代を映し出している。人力車や電

（長崎外國語大学長）

随时掲載します